

(社) 日本原子力学会 標準委員会

第27回 原子燃料サイクル専門部会 (FTC) 議事録

1. 日時 2007年6月5日 (火) 13:30~15:40

2. 場所 (独) 原子力安全基盤機構 別館 13A, B会議室

3. 出席者 (順不同, 敬称略)

(出席委員) 田中 (部会長), 駒田 (副部会長), 阿部, 荒木, 有富, 井口, 内山, 金木,

川上(博), 川上(泰), 佐久間, 仲神, 西村, 深澤, 堀川, 前川, 三塚 (17名)

(代理出席委員) 大音 (倉崎代理), 濱田 (園田代理) (2名)

(欠席委員), 藤原 (幹事), 小佐古, 長崎, 中島, 森山 (5名)

(欠席常時参加者) 飯村, 池澤, 宮川 (3名)

(事務局) 厚

4. 配付資料

配布資料

FTC27-1 第26回原子燃料サイクル専門部会議事録 (案)

FTC27-2 標準委員会の活動概況

FTC27-3 人事について (専門部会)

FTC27-4 人事について (分科会)

FTC27-5 原子燃料サイクル専門部会 分科会活動状況

FTC27-6 「返還廃棄物の確認に関する基本的考え方」標準委員会【2次投票】におけるコメント対応 (案)

FTC27-7 放射性廃棄物の放射能濃度決定方法「原子力発電所から発生する浅地中ピット

処分対象物の放射能濃度決定方法に関する基本手順」コメント内容の整理表

FTC27-8 原子燃料サイクルタスクの状況

参考資料

FTC27-参考1 原子燃料サイクル専門部会委員任期一覧

FTC27-参考2 標準委員会及び専門部会の今後のスケジュール(案)

5. 議事内容

(1) 出席者の確認

事務局より、24名の委員のうち、代理委員を含み19名の委員の出席があり、決議に必要な委員数（16名）を満足している旨の報告があった。

(2) 前回議事録の確認

前回議事録は、承認された。（FTC27-1）

(3) 標準委員会の活動概況

事務局より、FTC27-2に沿って、標準委員会の活動状況等が報告された。

(4) 人事について

a. 部会長の互選

事務局より、部会長選任方法が説明された後、出席委員19名による無記名投票が行われた。投票の結果、田中委員（部会長）17票、川上(泰)委員1票、白票1票により田中部会長が再選出された。（委員総数の過半数以上（13名以上）で選出）

b. 副部会長の指名

田中部会長により、駒田委員（副部会長）が副部会長に再指名された。

c. 幹事の指名

部会長及び副部会長の協議により、次回専門部会にて指名することとなった。

d. 専門部会人事

事務局より、FTC27-3に沿って、大橋委員(任期満了)、武田委員(任期満了)及び園田委員より退任届けが出されている旨、報告された。

事務局より、有富委員より濱田 哲 氏（国土交通省）、三塚委員より坂下 章 氏（三菱重工業(株)）及び内山委員より高橋 邦明 氏（(独)日本原子力研究開発機構）の委員推薦届が提出されていることが報告された。

また、5月末で任期満了となる佐久間委員については、再任の意向を示されている旨、報告された。

各々挙手による採決の結果、選任が承認された。

e. 分科会人事

事務局より、FTC27-4に沿って、輸送容器分科会(再開)において有富主査（東京工業大学）、第1回ウラン・TRU取扱施設クリアランスレベル検認分科会において井口主査（名古屋大学）及び第1回LLW埋設後管理分科会において新堀主査（東北大学）が分科会代表者として選任され、専門部会に推薦されている旨報告があり、挙手による採決の結果、専門部会委員として承認された。

また、FTC27-4に沿って、輸送容器分科会において12名の委員が選任されている旨報告があり、挙手による採決の結果、承認された。

(5) 分科会活動状況報告

事務局より、FTC27-5に沿って、各分科会の進捗状況等について報告された。

(6) 返還廃棄物の確認に関する基本的考え方（案）の委員会書面2次投票結果の対応について

FTC27-6に沿って、委員会書面2次投票での反対意見、保留意見等の対応案が報告され、審議の結果、対応案は了承された。

(7) 放射性廃棄物の放射能濃度決定方法(案)の委員会書面2次投票結果の対応について

FTC27-7に沿って、委員会書面投票での保留意見、その他意見等の対応案が報告され、審議の結果、対応案は了承された。

なお、部会長より、対応案は標準委員会委員に電子メールで事前に報告するよう指示があった。

主な質疑応答：

- ・No.4の対応案「適切な」という表現を使用しているが、どのような意味なのか。

→ 燃料損傷程度の差異に応じてプラントをいくつかのグループに分類することになるので、そのいくつかのグループ分類にあたっては、適切に行うということである。

(8) 原子燃料サイクルタスクの活動状況について

FTC27-8に沿って、原子燃料サイクルタスクの活動状況について報告された。

主な質疑応答：

- ・別添の表でクリアランスの判断方法が抜けている。

→ 別添は今後議論するためにひとつの案として纏めたもので、貯蔵等抜けているものもある。今後検討し、反映していきたい。

- ・土木学会、機械学会等とのインターフェイスも考慮していかなければならない。

6. 今後の予定

次回専門部会開催日程については、8月21日(火) 13:30～実施する予定。

以上